

区分	運航方法の概要	効果	実施状況
離陸方式	急上昇方式	通常の離陸方式と比べて高い高度（1,000m前後）まで急上昇を続け騒音の減少を図る。	効果大 ほとんどの空港で実施
	NADP2 (最適上昇方式)	離陸後一定高度に達した後、上昇を維持しながらフラップを格納し、速度の増加に伴う揚力の増加により高度を獲得することで騒音の減少を図る。	効果大 羽田空港
着陸方式	ディレイドフラップ進入方式	脚下げ及びフラップ下げ操作をなるべく遅くして機体の空気抵抗を減じ、エンジンの必要推力を減ずることにより騒音軽減を図る。	-2~-3dB(A) ほとんどの空港で実施
	低フラップ角着陸方式	接地するまでできる限り浅いフラップ角を使用して機体の空気抵抗を減じ、エンジンの必要推力を減ずることにより騒音軽減を図る。	-2~-3dB(A) ほとんどの空港で実施
その他	優先滑走路方式	滑走路の一方に人家のないような場合可能な限りその方向で離着陸を行う。	効果大 羽田空港、松山空港、 仙台空港
	優先飛行経路方式	旋回等により人家を避けた飛行経路を飛行する。	効果大 羽田空港、伊丹空港、 仙台空港、新潟空港

